



筑波山に彼岸花がよく似合う

日本一の彼岸花の里に！
 観光客や地元の人々に喜んでいただけよう願って、つくば道沿いに四季折々の花を植え続けて15年。ヒマワリ、サルビア、ペコニア、日々草、百日草、小菊など、春から秋にかけて長く咲く花を選んで植えています。花を植える仲間たちも少しずつ増えてきました。不要になった木を友人からもらい受け、それで作った丸太の椅子も自宅近く10カ所に設置しました。ちよっと一休みしながら、きれいな花と筑波山を眺めてみてください。今の私の夢は、臼井から立野にかけての地区を日本一の彼岸花の里にしてみたいということです。この地区は猪の被害が多い所です。そこで、猪の嫌う彼岸花を植え、猪除けも兼ねて、美しい彼岸花の里づくりが実現できるような構想を練っているところなんです。彼岸花の咲き乱れる様子を思いを馳せながら、みなさまのご協力をお願いしたいと思います。 鮭川和行（臼井地区）

山麓オーケストラを結成したい！

筑波山麓に生まれ、東京で育ち、現在、筑波山麓在住という人はそう多くないだろう。ここに住んでみると、「いい所にいますね」「不便で大変でしょう」という二通りのことを言われる。その答えはどちらも簡単だ（私の生き方が正しい！）。仕事の傍ら、趣味のバンドを長いこと続けてきたが、最近はいまややっていない。でも、いつでもスタンバイ出来るように、構想は練っているのである。それで、近いうちに「筑波山麓オーケストラ」を結成したいと思っている。3人ぐらいのバンド経験者がいれば可能だろう。まったくの未経験者がいたっていい。楽曲はトラッドやスタンダードナンバーを、ジャンルは考えず、アレンジはシンプルに、センスは高くという感じだ。30人ぐらいのメンバーに登録してもらい、流動的に演奏するのである。練習は月2回ぐらいでもいいか。のんびりと作り上げていければ。と夢想しているのがあった。 榎田智司(六所地区)



出番を待っている楽器たち

あなたも夢を描いてみませんか？ 「すそみ」をみんなで盛り上げよう！！



白滝古道整備中です

「すそみろく」9号までの歩み	
創刊1号 平成18年12月23日	編集メンバーからのメッセージ「ようこそ、すそみの田井へ」／歳迎への行事「普門寺除夜の鐘」「蚕影神社のお正月」「飯名神社の初巳」など／点滅交差点「福来みかんのシフォンケーキ」※創刊号から田井小児童によるイラストを連続掲載／1〜4号に田井地区の年間行事の聞き書き「すそみ歳時記を掲載
2号 平成19年2月23日	木を切る名人・杉田房雄さん「筑波山麓には古くから農を営みながら、木を切り出す元山が多かったです」／炭焼きについて／春を寿ぐ神事「杉ノ木稲荷の初午祭、飯名神社の初巳祭」
3号 平成19年4月30日	「蘇る古民家」六所の茅葺き民家を改築した入澤義時さん。民家は「六所の家」と命名／大正7年の共有林を使った田井小学校の上棟式の写真と文／六所神社跡地で執り行われた「神御衣祭」（4月8日）
4号 平成19年6月30日	田井エンジョイクラブによるアンケート「子どもの遊び―昔と今」（山麓では意外と外遊びが多い！）／小沢の十五夜の「大麦小麦」、杉ノ木の「稲荷万燈」、神郡の「祇園祭」白井八坂神社の「御神火」を「伝えたい民俗行事」として紹介／点滅交差点は蚕影神社の名物だった「蕪玉のお菓子」
5号 平成19年10月30日	秋を探して白滝古道を歩く／すそみ点滅交差点は秋のご馳走の「つばふかし」※2年目を迎え編集メンバー自らが動く「すそみ行動派宣言」を隠しテーマとして取り組む
6号 平成19年12月30日	お正月企画・600年の歴史に思いを馳せて「折形にふれる」／私のお気に入り「白井のさとの実（棕の木）」／お正月のメッセージ（32名からの協賛）
7号 平成20年4月1日	全ページ「桜」をテーマに／地図にない神郡山の山桜を探して・お花見隊が行く／薪プロジェクトスタート／私のお気に入り「燈が池の榎」／点滅交差点「桜おこわ」
8号 平成20年7月10日	御手洗竹松さん「金色姫伝説を描く」／レンタサイクルでゆく「初夏のすそみめぐり」／念願の地元の地域づくりの組織「田井の里地域づくり愛好会」発足／点滅交差点「はんでん屋」交友録（1年間神郡の倉庫でカフェを開店した思い出）
9号 平成20年10月1日	国民文化祭「筑波山麓秋祭り」の田井地区の注目イベントを全ページで紹介／田井の瓦屋さんと子どもたち／すそみの花嫁／お庭拝見「佐治右衛門邸」など／小さなそば打ち名人「辻・鮭川」と白井の「祭太鼓」

「おせんげん」を眺望の場に！
 普門寺本堂の背後から続く山は、江戸時代に作られた神郡村絵図では「三度山」とされていて、そのそばに「おせんげん」と記されている。おせんげんは「お浅間」であり、富士信仰のこと、きつと、ここに富士信仰の祭場があったのではないだろうか。富士信仰の祭場は富士山が遥拝できる場所に作られたといわれている。やはり神郡の「おせんげん」からも西の方に富士山を眺める事が出来る。
 明治時代に入って富士信仰の衰退と共にこの「おせんげん」も忘れ

られた場所になったのでしよう。ところが地元の人々の伝えによると、昭和30年頃には子供から青年団までを含めて奉納相撲が「おせんげん」で行われたという。昭和25年頃、当時の古老の言葉で「昔、神聖な場所であつた所をきれいにしなさい」と告げられ、神郡の有志数人がお告げに従って「おせんげん」を整備して、奉納相撲を行うようになったとの事。以来平成の始めの頃まで清掃や維持管理がされていたが、今は生い茂る草に道も塞がれている。
 この道をきれいにして「おせんげん」に立った時には、きつと筑波山

の全景を目の前に、西のかたに富士山を同時に眺められることでしょう。 石井博子（神郡地区）
古道 魅力ある山道の復活を！
 筑波山麓田井地区の山中には、かつて白滝神社への参詣道として使われていた道（白滝古道）や、山仕事のためにつくられた多くの山道があります。長年使われず、草木が生い茂っています。昨年、地元住民の方々と外部の応援団と一緒に白滝古道を復活させる整備をはじめ、もう少しで全部歩けるようになります。蚕影神社から細草川へおりの山道を復活したいという声もあり、実現すれば、筑波山を眺められるすてきなコースとなるでしょう。また、山口から神郡に至る山道をつけようと「つくばフォレストクラブ」のメンバーが活動を始めました。気持ちよく歩ける山道が復活して、ハイキングコースのネットワークができると、山麓の魅力アップにつながります。森林が使われなくなって手入れされずに放置され、イノシシのすみかとなつてしまつた今日ですが、山道の復活からはじまつて山麓の里山整備が進み、美しい景観や豊かな自然が守られることを願っています。 田中ひとみ（つくば環境フォーラム代表）

インフォメーション

- 普門寺 除夜の鐘つき
12月31日(水) 23時から整理券配布 23時15分に順番のくじびき(当たり券あり) 23時45分から撞き始め
- 大御堂
世界平和を祈念して皆様も鐘をついてください。
12月31日(水) 22時から除夜の鐘
1月1日(祝) 10〜16時 新春の鐘打ち
1月18日(日) 初観音ご縁日 ご来寺になつて世界平和を祈念しましょう
- 筑波山神社
1月1日(祝) 3日(土) 初参りの皆様に甘酒のサービスがあります。その日の予定数がなくなり次第終了します
- 飯名神社例祭
2月5日(木) 皆様のご多幸を願い富来餅を5回撒きます。(10・11・12・13・14時)
- 杉ノ木稲荷神社 初午祭
2月6日(金) 8時から
- 筑波山麓すそみの森づくり
1月10日(土) 竹林の手入れ・チップ化作業
2月7日(土) 間伐材の処理
2月21日(土) 間伐材でベンチ作り
3月7日(土) 植樹祭
- ※活動日には「つくば薪クラブ」の活動もあわせて実施します。薪ストーブ愛好家の皆様のご参加をお待ちしています。
- 「問・申込」つくば環境フォーラム
029-863-1515
- 筑波山麓自然学校 炭焼き講座
1月31日(土) 2月1日(日) 大人の参加費9000円(1泊4食、夜の交流会含む) / ドラム缶窯で竹炭・飾り炭づくり、燻製・ピザ焼きなども。
- 「問・申込」筑波ふれあいの里
029-866-1519



「里山緑台」でくつろぐ人々 写真：米山淳一

つくば道の「里山緑台」を広めたい！
 国民文化祭の一環として盛況のうちに行われた秋祭りの期間中、山麓各所に用意された2種類の「緑台」に気づかれただろうか。竹の縁台と杉の縁台である。どちらも里山の材料を使い、地域の職人の技を活かして作った。庭先や通り沿いに並べられた縁台は、紅葉の山麓風景にじっくり馴染み、行き交う人々も歩みを止めてほっと一息ついていた。
 元々このような縁台は、夏に縁先や川辺に据えて涼みに用いる「涼み台」と呼んだそうだ。跨って将棋を指す際にも使つたらしい。肌寒くなる秋祭りの季節でも、地域の「温み台」として毎年味いを重ねて活用されることを願う。物を陳列するも好し、腰掛けるも好し、軽くて持ち運び便利。「里山緑台」ご注文承ります。松本真朋(里山建築研究所)